日刊 動労千葉
80.12.30
No. 620
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

# この一年をふりかえって…各支部長さんに聞く…

## 勝浦支部執行委員長　窪田　亮

我々は、この一年間、第三回動労千葉定期大会方針にのっとり、八〇年代に通用する自前の労働運動を構築する為、労働運動の原点に立ちかえり、自からの要求は自からの力で勝ちとることをもって組織の強化発展にまい進してきました。「動労本部」から分離・独立「3・30」以降、我々は常に動労千葉の運動の正当性、階級性を追求し、35万人体制合理化、三里塚・ジェット闘争を闘う中で、動労「本部」革マル反動分子の最後的危機としての動労千葉攻撃であることも明らかにしてきました。

支部はこの間、前述した通り、常に組織の強化発展を中心軸にすえ、日常のサークル活動を活発化し、人間関係を養い更なる団結を構築してきました。乗務員運用合理化攻撃の真只中で開催された総合文化祭は、その意味に於いても非常に有意義でありました。又、支部の闘いの中心軸として展開されるであろう木原線廃止反対闘争は、11・25ストを一つ節として、この間着実に前進しつつあります。

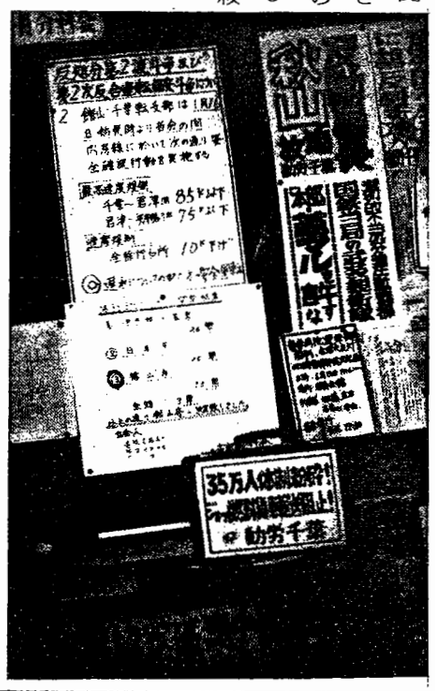
現在、地区労に積極的に働きかけ、地域住民の木原線廃止に対する意識調査等も行い集約段階にあります。

いずれにしても、目前にせまった81・3ジェット闘争と35万人体制合理化を結合し、組織の命運をかけその先頭に立って闘う事を明らかにします。

## 津田沼支部執行委員長　片岡一博

80年もあとわずかに残すところです。労働運動総体が右傾化する中で、私達は動労千葉の正しい路線にもとづき、職場生産点においても活気あふれる闘いを展開することができたと思います。

しかし、今日の情勢は、私達の思惑をはるかに越え、進行しているようです。81年を迎えるにあたり、情勢を切り拓く闘いの飛躍と組織体制に一層の努力を心がけなければなりません。それは、三里塚・ジェット81・3決戦であり、と同時に動労「本部」革マル分子一掃の闘いであります。4・17、4・15武装しゅうげきにみられるように、当局に処分を哀願するような、労働者の仮面をかぶった動労「本部」革マル分子を断じて許さず、一掃する闘いを強化することです。そしてこの闘いが必ず81・3決戦を未然に封殺せんとする当局・動労「本部」革マル分子一体となった組織破壊を粉砕することになるわけです。津田沼支部の全組合員のその先頭に起ってトコトン闘っていきたいと思います。




## 館山支部執行委員長　庄司　功

私は、今年六月より館山支部執行委員長として、動労千葉の旗のもとに結集し、今日に至っております。

この間、動労「本部」革マル反動分子は、当局と一体となり、津田沼支部攻撃に見られるように悪らつな妨害をしかけてきましたが、これに屈する事なく、それを粉砕してきました。

又、反動秋山局長を始めとした当局は、「五五・一〇」、さらに「乗務員運用合理化」に見られるように要員削減を目的とした合理化を強引に策動し、生み出した要員をジェット燃料輸送要員に充当し、組合の弱体化を計り、組織破壊をねらう悪らつな攻撃をかけてきました。この現実に冷静な対応をし、その野望を壊滅してきましたが、当局と一体となった反動分子は、我々に卑劣な攻撃をしかけてくる事は明白な事実であり、三里塚・ジェット燃料輸送阻止と合理化を粉砕して行かなければなりません。

当館山支部も動労千葉本部の基本線にのっとり、団結と連帯をもって対処して行きます。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！